

協調能力を養う

学校や地域コミュニティの機能低下でコミュニケーション能力を身につける機会が減少した。それらを代替する塾などを紹介する。

鎌倉てらこや

群れ遊びを再現 地域が支える寺子屋

毎週土曜午前、神奈川県鎌倉市の大船駅前の雑居ビル3階に、小学生が嬉々として集まって来る。その先は、平成の寺子屋。NPO法人鎌倉てらこやが2003年から運営する。会場は地域の協力が提供し、大学生を中心としたボランティアがサポートする。

午前の2時間は自習時間。学校の宿題でもドリルでもなんでもいい。各自持参した教材に取り組み、顕微鏡を取り出し自由研究を始める子どももいる。わからない問題は大学生や上級生が教えてくれる。昼食を挟んで午後の2時間はとにかく遊ぶ時間。目下のブームは水風船のぶつけ合いだ。室内に残った子どもたちはボードゲームに興じていた。とにかく、学校も年齢も異なる子どもたちが学生を触媒として、群れて遊ぶ。早稲田大学院生で事務局次

長の小木曾駿氏は、「かつての地域コミュニティにあった、年齢を超えた群れ遊びを再現した」と狙いを語る。遊ぶだけではなく「集団の力で自然と机に向かう」という。



宿舎での夏合宿で行われる建長寺での座禅。ボランティアや地域コミュニティも活性化しつつあるという

子

ども同士のケンカは日常茶飯事だ。一人っ子も多く、年上や年下とのケンカが初体験の子もいる。「無理に仲介せず、子ども同士で仲直りや折り合いをつけることを経験させるようにしている」（小木曾氏）。

子どもを通わせている親の1人は、「苦手だった上級生との会話もできるようになった」と喜ぶ。

地域の協力者も多く、子どもたちは陶芸や日本画、稲作などを体験させてもらえる。寺、神社、教会も、宗派を問わずサポートだ。8月には最大イベントの建長寺での夏合宿が始まり、座禅も行われる。こうして、子どもは地域に育てられる。